

信大病院 21C

ハミングク



No.64
2013.6.10

基本理念

本院は診療・教育・研究を遂行する大学病院としての使命を有し、また患者さんの人権を尊重した先進的医療を行うとともに、次代を担う国際的な医療人を育成する。



『朝焼けの北アルプス—美ヶ原からの眺め—』
撮影：病院長 天野 直二

主な記事

- 新戦力! ~新規職員紹介~ 2~3
- おれ 太陽! 6
- 信州がんセンターのご紹介 4
- 西8階 病棟の紹介 7
- ロボット支援腹腔鏡下手術について 5
- ご意見函からの声 7
- ドクターヘリ見学会! 6
- 電話番号表・編集後記 8

新戦力! ~新規職員紹介~

新年度になりまして、医師、コメディカル、看護師…などたくさんの職員が信州大学医学部附属病院に入職いたしました。新規職員の抱負をご紹介します。ご紹介するのはほんの一部ですが、みなさんといろんな場面でお会いするかもしれません。どうぞよろしくお願いいたします。

新人もベテランも、 患者さんにとっては皆同じ医師である

天野病院長をはじめ、多くの先生がオリエンテーションでおっしゃっていた言葉です。この言葉を聞いて私は『新人だからといってその立場に甘えてはいけません。日々多くのことを吸収して、今の自分にできる最大限の努力を毎日していこう』と心に誓いました。医師としての責任感をしっかりと持ち、また新人としての謙虚さを忘れずに、温かな気持ちで患者さんに接することができる研修医でありたいと思います。



研修医 1年目
品川 潤



リハビリテーション部
理学療法士
常田 亮介

患者さんに寄り添えるような 理学療法士を目指して

理学療法士となって、2週間が経ちました。やりたいこと、学びたいことが沢山あり毎日が充実しています。入職して、僕が患者さんと関わる中で大切にしたいと思ったことは、僕自身もリハビリを楽しむということです。患者さんにとって辛く苦しい時もあると思いますが、理学療法士が辛そうにリハビリを行っていたら、余計に辛くなってしまわないかと思いき、機能改善のみでなく、患者さんが少しでもリハビリが楽しくできてよかったと思ってもらえるように、笑顔と元気を絶やさず患者さんに寄り添えるような理学療法士を目指していきたいです。

患者さん1人ひとりに寄り添いあった リハビリができる言語聴覚士に

こんにちは。今春からリハビリテーション部に入職しました、言語聴覚士の岡本梨江です。私は、10年来の夢であった言語聴覚士になることができました。言語聴覚士という仕事は、主に脳卒中などで言葉を話にくくなったり、食べ物を上手く飲み込めなくなったりした患者さんに専門的なリハビリを行います。日々のリハビリの中で、患者さんがご飯を食べられるようになったり、言葉で意思を伝えられるようになったりしたとき、大きな喜びを感じます。言語聴覚士として走り始めたばかりですが、患者さん1人ひとりに寄り添いあったリハビリができる言語聴覚士になれるよう日々努力していきたいです。



リハビリテーション部
言語聴覚士
岡本 梨江

患者さんと接する一日一日を大切にしていきたい

4月に入職し、看護師として先輩方に支えられながら、病棟で多くを学んでいます。あっという間に過ぎていく毎日です。緊張することも多いですが、少しずつ病棟にも慣れながら、自分のできることを増やしていけるよう努力しています。けれども、まだ未熟なので、一人前になるために学ばなければならないことがたくさんあり、時間がいくらあっても足りないくらいです。そんな中でも、患者さんと接する一日一日を大切にしていきたいと思います。これからも、笑顔を忘れず、元気に頑張ります。



東8階病棟
看護師
太田 美穂



西8階病棟
看護師
稲葉 ひとみ

家庭と仕事を両立させ元気いっぱい頑張りたい

先輩とペアになり患者さんと関わらせて頂く中で、たくさんの学びがあり毎日とても充実しています。心疾患や心電図に興味があったので循環器病棟を希望しました。一生懸命勉強して、疾患と看護を繋げられるようになりたいと思います。日々の学びを大切に、不安な時は先輩に相談しながら患者さんに合った援助をしていきたいです。まだまだ始まったばかりです、家庭と仕事を両立させ元気いっぱい頑張りたいと思います。

患者さんにより高度な医療を提供できるように日々努力していきます

今年4月から、診療放射線技師として信州大学医学部附属病院で働くことになりました前原将貴です。私は群馬県出身であり、22年間過ごした群馬県を離れ初めての一人暮らしをしています。松本という新たな環境で社会人として働くことに楽しみな反面、不安も抱いていました。しかしながら、先輩技師の方々は非常に優しく丁寧に指導して頂き、とても恵まれた環境の中で仕事を行うことが出来ていると感じています。信大の方々は自身の技術向上への意識が高く、私が見習わなければならないことがたくさんあります。知識、技術ともにまだまだ未熟ではありますが、患者さんにより高度な医療を提供できるように日々努力していきますのでよろしくお願いします。(前原)



放射線部
診療放射線技師
前原 将貴

放射線部
診療放射線技師
小西 景子

患者さんに丁寧で安心感を与えられるような診療放射線技師になりたい

4月から信州大学医学部附属病院で診療放射線技師として働くことになりました。診療放射線技師は、一般撮影(X線撮影)、CT、MRI、核医学での画像検査や放射線治療などを担当しています。まだわからないことが多く未熟な私ですが、患者さんに丁寧で安心感を与えられるような診療放射線技師になりたいと思います。また、検査や治療に役立つ写真を撮ることができるように日々努力していきたいと思います。笑顔で頑張りますので、よろしくお願いいたします。(小西)

信州がんセンターのご紹介

包括的がん治療学講座 (がんセンター科) 麻酔蘇生学講座 (麻酔科蘇生科) 助教 信州大学緩和ケアチーム専従医師 坂本 明之



信州大学にがんセンターが設立されました。長野県は、がんセンター不在の県であり、古くから早期設立の声が多く聴かれましたが、たいへん永らくお待たせ致しました。

当がんセンターが県民の皆様にご紹介すべき特長をご紹介します。我々の診療科は、一般的に腫瘍内科と呼ばれるカテゴリーに入ります（当院ではがんセンター科を名乗っています）。聞きなれない名前だとは思いますが、そちらからお話し致します。日本では、元来臓器別に診療科が区分されており、それぞれの臓器に発生したがんをそれぞれの臓器別診療科が診察しています。ところが、がんはどこの臓器からも発生します。また、がんは複数の臓器に発生（転移）してしまうことや、発生臓器がわからない原発不明がんと言われるものもあります。よって、がん治療は、臓器別の専門家が診療するよりも、抗がん剤治療の専門家が全身を診察し、施行した方が効率的で、安全に施行できる場合があると考えられます。更に、抗がん剤治療には強い副作用が現れることがあるため、副作用対策を熟知しておく必要があります。抗がん剤治療には高い専門性が要求され、腫瘍内科はその抗がん剤治療に詳しい医師団であると理解してください。

しかし、「がん治療＝手術」と思われる方も多いと思います。更に、放射線療法や、第四の抗がん治療として期待されている樹状細胞療法といった治療法もあります。我々はこのような治療が必要である方に対し、手術であれば外科と連携を取り、それぞれの専門家に適切にコーディネートを行います。また、中には各臓器に特異性の高いがんもあり、そのようながんは臓器別の専門家への紹介や連携を行います。我々はが

んセンター科を名乗ってはおりますが、決して我々だけでがん治療を完結させようとしているわけではありません。広い意味では信州大学全体ががんセンターであり、患者さん一人一人が最も適切ながん治療が受けられるようにコーディネートすることも、我々の重要な任務のひとつであるというわけです。

そのほかにも、腫瘍内科には大切な任務があります。残念なことに、がんは現在日本人の死亡原因1位であり、がんで亡くなってしまいう方も大勢いらっしゃいます。例えば手術後の痛みであったり抗がん剤治療に伴う副作用であったり、身体的、精神的な様々な苦痛と共に患者さんは「がんと闘う」ことを長期に渡り強いられてしまいます。そのような“長患い”は決してがんだけに限ったことではありませんが、がん患者さんにおいて特に多く見受けられます。“長患い”に伴う様々な苦痛は、「がんと闘う」患者さんを体力、気力共に萎えさせてしまうため、苦痛を和らげる必要があります。この苦痛を和らげ生活の質を向上させる取り組みを「緩和ケア」と言います。多くの方が、緩和ケアと終末期ケアという言葉を混同しているところがありますが、緩和ケアとは長い治療の経過の中で、いついかなる時にも必要とされるケアであり、決して亡くなる前数日間に施される終末期ケアを意味する言葉ではありません。「がんと闘う」間、少しでも苦痛を軽減しながら闘えるように、患者さんや患者家族を支えることが緩和ケアであると知ってください。この緩和ケアを切れ目なく提供できるところも当科の特長の一つです。このように横断的がん治療から緩和ケアまで行う診療科が一般的に腫瘍内科と呼ばれており、信州大学がんセンター科の担う役割でございます。

信州大学がんセンターの特色がお分かりいただけましたでしょうか。私は緩和ケアの専門家です。その他に、放射線治療の専門家と、勿論化学療法（抗がん剤）の専門家が存在し、包括的ながん治療を行っております。今後とも、県民の皆様のご期待にできるだけ応えられますように頑張っていく所存です。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

ロボット支援腹腔鏡下手術について

泌尿器科 石塚 修、西沢 理

手術操作を行う
専用のコンソール



図1 導入されたダビンチ・システム

最近、外科領域で大変注目されている事のひとつは、ダビンチ・システムを使用したロボット支援手術です。簡単にその手術の概要および、信州大学医学部附属病院での稼働状況についてのご紹介をしたいと思います。

ダビンチ・システムとは、ごく簡単に述べますと、腹腔鏡手術を人間の手と同様に自由自在に動く鉗子^{かんし}を使用して、3D画像をみながら行う手術手技です。術者は専用のコンソール内で手術操作を行うため、手洗いをする必要がなく、場合によっては遠隔操作も可能な手術支援装置です(図1、図2)。

米国を中心に開発されましたが、その開発コンセプトは、将来の宇宙旅行(その場に医師がいなくても手術可能)、戦闘時の手術(前線に医師がいなくても手術可能。実際、本格的な開発が進んだのは、湾岸戦争の時のようです。)などでした。しかしながら、実際に臨床応用が進んでくると、通常の手術では術者が見えにくい部分、手が届きにくい部分、また、非常に細かい



図2
ロボットアーム

操作を要する部分の手術操作に非常に適していることがわかりました。

現在では、骨盤内手術(泌尿器科の前立腺がん手術、婦人科の子宮手術、外科の大腸がん手術)や、消化管手術、呼吸器外科手術、甲状腺手術、心臓血管外科など、幅広く応用されるようになりました。既に世界的な趨勢^{すうせい}としては、前立腺がんの手術の主体がロボット支援手術となっております。本邦では、平成24年4月より前立腺がん手術においては保険収載になりましたので、急速に普及してきました。

信州大学医学部附属病院では平成24年10月に導入されました。その後、実際の稼働にあたってのトレーニングプログラム、および病院内の倫理規定などの諸条件を満たす諸準備が行われ、本院のみならず、長野県内での実施としての記念すべき第一例目は、平成24年12月18日に施行されました(図3)。手術を受けた患者さんの経過は順調で、術後1週目で無事に退院されました。

その後、順調に症例を重ね、平成25年4月19日の時点で11名の患者さんが手術を受けられました。

現時点では、手術適応と判断された前立腺がんの患者さんを対象として、手術を施行しております。しかしながら、手術の特性上、以下の方は、当面、適応を見合わせております。

- ①腹腔鏡手術ですので、大きな腹部手術の既往がある方
 - ②頭低位25度で手術が行われますので、緑内障などのために頭低位で眼圧が急激に上昇する方や、脊椎疾患などのために頭低位を長時間保つことができない方
- 患者さんにとっては、侵襲の少ない治療であることは間違いのないと思われ、適応範囲も徐々に広がってくると思われます。今後とも普及に努めたいと考えております。



図3
第1例目の
手術の様子

ドクターヘリ見学会！

高度救命救急センター 岩下 具美



長野県内には、2005年に佐久総合病院、2011年に当院が基地病院となり2機のドクターヘリが運航しています。2013年3月26日(火)、当院にて市民の方を対象とした見学会を開催しました。いつも騒音や爆風等でご迷惑をかけているヘリコプターですが、その中に救急医療を目的としたドクターヘリがあることを理解していただくことが目的です。

見学には県内の広い地域から65名にご参加いただきました。当日の見学行程と話題になったことを挙げます。

1. ドクターヘリの説明

救急現場に迅速に医療を投入することが一番の目的で、“空飛ぶER(救急外来)”とも呼ばれています。搬送時間の短縮が主な目的ではありません。

2. 運航管理 (CS : Communication Specialist) 室の見学
要請手段は、消防機関からのみです (一般の方からの要請

はできません)。消防機関との密な連携が大切です。ドクターヘリは要請から3～5分後には離陸できます。

3. 搭載している医療資機材の説明

様々な傷病者に対応できる資機材を準備していますが、重量制限があり適宜調整をしています。フライトドクターやナースの体重も事前に申請し、オーバーしないように日々注意しています。

4. ドクターヘリの見学

ヘリコプター内の医療機器の配置や狭いスペースでの診療風景・ベッドの搬入方法を見学いただきました。

5. 意見交換会

「フライトドクターがヘリコプターを操縦するのか?」「搭乗する医師はどんな人?」「どのくらいの距離を飛べるのか?」「速さはどのくらいなのか?」などの話題が挙がりました。

6. 写真撮影と見送り

全体写真を撮影し、運行終了時(午後5時)に格納庫(松本空港)へ飛び立つドクターヘリを見送っていただきました。



搭載している医療資機材の説明

これからも、子ども達の長期休みの時期に見学会を開催する予定です(次回は夏休みの予定)。

参加申し込みは事前登録制となっており、開催が決まりましたら信州ドクターヘリ松本のホームページ(<http://www.shinshu-doctorheli.jp/>)に案内します。これからも皆様の応援、宜しくお願いします。

おれ 太陽!

医事課 中島 恵子



院内学級の2人の児童と応援の附属小合唱部

信州大学医学部附属病院には院内学級があります。入院中の学童期の子ども達が体調に気遣いながら様々な勉学に励んでいます。そんな中、一昨年の国語の授業で一人の男児が「太陽」という詩を作りました。

おれ太陽／地球をじりじりてりつける／いつまで

たってもつかれないぜ

毎日毎日もえている／地球に暗い日が来ないように
この簡潔でダイナミックな詩を読んだ『月からの使者』さん(某患者さん)が曲を付けてくれました。それ以来この歌が院内学級のテーマソングとなり、歌い継がれています。歌い手も聴き手も元気が湧いてくるこの歌を多くの患者さんにも聴かせてあげたくて、ついに3月19日、院内で発表会を開きました。病気に負けない強い心が生み出すパワーが、2人の小さな患者さんの澄んだ歌声に乗って会場を包み、春の訪れを感じた午後でした。



西8階 病棟の紹介

西8階病棟 看護師長 内田 緑



西8階病棟は、先端心臓血管病センターで循環器内科、心臓血管外科の病棟です。冠動脈疾患、不整脈、心不全、弁膜疾患、先天性疾患、大血管疾患、末梢血管疾患などの患者さんが入院しています。平成25年4月よりCVCU(心血管集中治療室)4床が開設されました。内科的な薬物治療やカテーテル治療、外科的手術を受けた患者さんに対して、身の回りのお世話や処置などを安全・安楽に配慮して看護を提供しています。

心臓、血管の病気は糖尿病、高脂血症、腎不全など合併していることも多いため、生活習慣を見直し、改善できるように生活指導や栄養指導を行っています。



退院に向けて患者さんの病気に合わせたパンフレットを作成しています。



心臓病の方が、体力を回復し自信をつけて社会に復帰できるよう、また、再発を予防する目的でリハビリテーション部と連携して、心臓リハビリテーションを推進しています。

先端心臓血管病センターでは、入院から退院まで医師、看護師だけでなくリハビリテーションや臨床栄養部、薬剤師、外来、医療福祉支援センターなど他部署・他部門と連携してチームで患者さんを支えています。

ご意見函からの声

Q 特定疾患医療受給者証の、主治医に書いて頂く書類についてですが、出来上がったものは自宅へ郵送して頂けるけれど、申し込みの時も郵送やFAXはできないのでしょうか。遠くから通っている人は来るだけでも大変と思うのですが。(県外からの人もいます)



A 貴重なご意見をありがとうございます。特定疾患医療受給者証主治医記載についてのお申し込みは、電話でお受けすることができます。しかしながら、書類への記載は年に1回の受診がないと書くことができません。そのため受診に来て頂くお願いを必ず致しております。遠方の患者さんにとっては大変ご足労と存じますが、ご理解、ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

電話番号表 (市外局番 0263) 代表番号 : 35-4600

【診療科外来】

南1階	小児科	37-2776	南3階	眼科	37-2789	リハビリテーション部(理学療法)	37-2836
	遺伝子診療部			耳鼻いんこう科	37-2791	リハビリテーション部(作業療法)	37-3399
	先端心臓血管病センター			産科婦人科	37-2793		
	循環器内科			皮膚科	37-2778	通院治療室	37-2552
	整形外科			消化器外科		医療福祉支援センター	37-3370
脳神経外科	移植外科	37-2781	高度救命救急センター	37-2222			
南2階	呼吸器・感染症内科	37-2768	北2階		小児外科	37-2783	胸痛センター
	消化器内科			呼吸器外科	37-2846	内視鏡センター	
	血液内科			乳腺・内分泌外科		37-2787	外来予約センター
	腎臓内科			麻酔科蘇生科	37-2796	臨床試験センター	37-3389
	脳神経内科			形成外科	37-3381	移植医療センター	37-2930
リウマチ・膠原病内科	37-2773	北3階	精神科	37-2846	子どものこころ診療部	37-2787	
糖尿病・内分泌代謝内科	37-2770		子どもこころ診療部	37-2787	特殊歯科・口腔外科	37-2796	
内科総合外来			37-2773	泌尿器科	37-3381		
放射線科							

【医事課】

収 入 係	37-2763
入 院 係	37-2759
外 来 係	37-2757
医療福祉係(診断書)	37-2762

【病棟スタッフステーション】

西病棟		階	東病棟	
【先端心臓血管病センター】				
循環器内科	37-2777	8階	糖尿病・内分泌代謝内科	37-2769
心臓血管外科			乳腺・内分泌外科	
脳神経内科、脳神経外科	37-2774	7階	消化器内科、血液内科	37-2771
リウマチ・膠原病内科			腎臓内科	
皮膚科	37-2788	6階	【呼吸器センター】	37-2784
泌尿器科			呼吸器・感染症内科	
消化器外科、消化器内科	37-2782	5階	呼吸器外科	37-2790
移植外科、小児外科			眼科、脳神経外科	
産科婦人科	37-2772	4階	麻酔科蘇生科	37-2794
新生児科(NICU・GCU)			小児科	
精神科	37-2775	3階	整形外科	37-2786
子どものこころ診療部				
放射線科、消化器外科、移植外科	37-2780	2階	耳鼻いんこう科	37-2792
小児外科、特殊歯科・口腔外科、RI 信州がんセンター、救急科			形成外科	



☆相談窓口☆

受付時間：月～金（祝除く）
9時～16時

くすりの相談室	37-3013	地域医療連携支援室	37-3370
総合医療相談室	37-3370	難病相談支援センター	34-6587
がん相談	37-3045	難聴児支援センター	34-6588
セカンドオピニオン外来	37-3111	肝疾患診療相談センター	37-2922

編集後記

病院長の目に映ったアルプスを表紙に、64号が完成しました。医療人の育成も大切な務めである当院の春は、フレッシュマンの熱気に満ちます。同時に、フレッシュではない(?)職員も初心に戻り、患者さんとともにある医療の原動力になっています。その思いとともに、待望の「信州がんセンター」や先進技術が濃縮された「ロボット支援手術」などを紹介させていただきました。朝日に映えるアルプスのように、皆さんに慕われ続ける病院として発展したいという願いを添えて、お届けいたします。(小児科 稲葉雄二)

あなたの自慢の写真で「ハミング」の表紙を飾りませんか? 写真を募集しております!

お名前・写真のタイトルをご記入の上、
ctc@shinshu-u.ac.jpへお送りください。
写真は2MB以上5MB未満のjpgデータ

【お問合せ・応募宛先】
信州大学医学部附属病院 総務課 卒後臨床研修係
TEL: 0263-37-3050
※応募はメールのみ受付